

令和三年のスタートにあたり

新年に向けて、より「主体的に」



あけましておめでとう
ございます。令和三年が
始まりました。昨年は新
型コロナウイルスに振り
回された一年でしたが
新年を迎え、新たな誓い
を立てたことと思いま
す。学校は、新年度が四
月ということで、一月は
令和二年度のまとめの
時期となります。
しかし、四月に向けて
スタートするには、この
時期から準備を進めて
いかななくてはいいませ
ん。そういう意味でも、
大事な時期となります。
昨年末、新生徒会が誕生
しました。これまでの先
輩たちが築いてきた土
台を受けて、さらに素晴
らしい玉中にしていくこ
うという願いも込められ
ています。もつとこの玉中
をよくしていくためには
どうしたらいいのか。そ
のキーワードが「考え
る」だと思っています。

学校を楽しくさせるのは
自分自身です！

例えば、行事にしてもただ何となくこなすのではなく、「これでいいのか」「もっと良い方法があるのではないか」という視点で考えて欲しい。そうするともっともって素晴らしい取組が浮かんできます。こういう考えを最近では「クリティカル・シンキング（critical thinking）」（批判的思考）と言います。

学校を楽しくさせるのは自分自身です！

「学校が楽しくない」と思っている人。それはあなたが、誰かがしてくれよう、誰かにやってもらおう、そういう気持ちでいるから楽しくないのです。自分からすすんで行動してみよう。自分で考え、自分で動く。例えば、学級にしても楽しくするにはどうしたらいいのか、まずは自分で考え、友だちにも話をし、共感した人たちで行動に移してみよう。そうすると、今まで見えなかったことがいろいろと見えてきて、きっとこれまでとは違ってくるはず。

ある行事の実行委員の人が「自分たちで考えて行動するのが楽しい」と言っていたのがいままで私の耳から離れませんでした。



が正月は様々なスポーツにたくさんの感動を与え、
てくれました。今年は特
に新型コロナウイルスの
感染拡大で「不要不急の
外出を避ける」というこ
とで例年とは違って、例
年よりも自宅コタツに
入りながらテレビでスポ
ーツ観戦した人も多いか
らと思います。その中で、
年ついでに見入ってしまった
う箱根大学駅伝。今年も
教わるべき事がたくさん
ありました。その箱根駅
伝、

最後の最後まであきらめない
今年も箱根駅伝から学ぶ



三年生にとつてはいよいよ高校入試がスタートします。今年はこれまでとは違ってゆつくりとお正月気分を味わえなかつたことと思います。しかし、それは中三生にとつて

は、宿命といわれるもので、誰もが同じ経験をしてきたわけ特別ではありませんが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大でこれまでとは違った高校入試になりそうです。状況も変わることもあるでしょう。よく情報把握して対応して欲しいと思います。今週末には、私立高校等の推薦入試が始まります。ぜひ、最高のコンディションで入試当日を迎えられるようにしてください。一、二年生もみんなで三年生を応援していきましょう。

三年生、高校入試突入！
九日から私立高校等の入試スタート

ご存じのように、東京・箱根間往復二百キロメートルの道のりを二日間、十人のランナーが母校のタスキをつなぐ、正月の恒例行事ともなるほどの大会です。

今年の大会で教わった事は「最後まであきらめない」ということでした。一日目の往路を優勝した創価大学が二日目もずっとリードを保っていました。アンドカーにタスキが渡ったときには、二位の駒沢大学には三分以上の差がついていました。通常最後の区に來たとき三分ついていれば（距離にすると一キロメートル以上）ほぼ優勝間違いなしという距離。誰もがそう思っていたことでしょう。でも、あきらめていなかったのは、駒澤大学の選手たちでした。とにかく大

二十日一・二年生
学力定着テスト

二十日は一・二年生の「行方市学力定着テスト」が実施されます。年末から冬休みにかけて、二十日のテストに向けての準備をしてきました。しかし、中には計画通り学習が進まなかった人もいるかと思いますが、まだ時間は残されています。これから少しでも学習に取り組むことで、取り組まないよりは良い結果が出るはずですよ。あきらめることなく、残された時間で自分にできる最大限の努力をして欲しいと思います。

ました。すると徐々にその差が縮まっていき、ついに残り二キロメートルのところまで追いつき、最終的には駒澤大学が奇跡の優勝を果たしました。

この光景を見ていて、とにかく終わるまでは何が起きるのか分からない、そのためにはあきらめずに最後まで自分の最大限の力を発揮することの大切さ、あきらめずに全力を尽くすから「奇跡」が起きるということを改めて今回の箱根駅伝から教えてもらうことができました。

あるスポーツ漫画で監督が「あきらめたらそこで試合終了」という言葉を言っていた場面があったのを思い出しました。

編集後記

「やさしさに包まれたなら」

新年に入っても新型コロナウィルスの感染拡大が一向に収まる気配がない。先が見えない中、不安を抱えて毎日を送っているとなぜか人の心も寒々しくなっている感じがする。私自身、家族等に対しての普段の会話の中で、言葉がきつかったかなと後悔することも度々ある。

そんな中で、先日テレビを見ていてすばらしい人に出会った。それは某テレビ局のニコースキャスターの藤井さん。彼はアナウンサーとして報道専門に歩んできたので、バラエティー担当のアナウンサーとは違って派手さはない。事件や事故等のニュースを確実に視聴者に分かるように話してくる。これだけだったら某国営放送のアナウンサーと変わらないが、一つだけ違うところは、報道した内容のどこかに視聴者や相手に対しての「やさしい言葉」が入っているところだ。先日も新型コロナウイルスのニュースを話していた最後に「いっしょに頑張っていたり、医療関係者との関係者の部屋で五時のチャイムが鳴ったときにも、早く終息して、五時に帰れるように言いが来ると良いですね。」と言った瞬間、医療関係者の表情が緩んだ場面がありました。

こういうときだからこそ、人に対しての「やさしさ」を忘れてはいけないのだということを藤井アナウンサーから教えていただいた。彼の最後のコメントはいつも「今日もご覧になっていただきます」という言葉で終わります。彼のやさしさにじみ出てくる言葉だ。